熊本・徳永直の会会報
第３６号

徳永直生誕百年が
来一九九九年にやってくる

二十世紀が期待を裏切ったのなら、二十一世紀はその穴埋めをせねばならない。「インテリゲンチャのある種の悩みより」確かな生産的なものを、また「消費生活の絢爛さより」も節約と質素に心掛け、地球をもとの地球に戻し、実際に働くものが胸を張って歩ける社会を取り返し、金力と政治的権力をもって悪事を働き反省の色もなき奴等をドブにたたき込み、国家や民族の垣根を取り壊し、弱い人の目線をもって生きる、そういう人が一人でも多くなる世の中にしたい。徳永直生誕百年に際して、わたしの願い。二十一世紀への第一歩がそこにある。

（中村青史）

第二十一回孟宗忌御案内

一、日　時　一九九八年二月十五日（日）午後二時より
一、場　所　立田山登山口　徳永直文学碑前（泰勝寺入口）
　。碑前祭　一四：〇〇～一四：三〇（碑前）
　。偲ぶ会　一五：〇〇～一七：〇〇（熊大教育学部　中村研）
一、会　費　参加費一、五〇〇円、偲ぶ会費五〇〇円

連絡所　熊本市黒髪二―四〇―一　熊本大学教育学部中村研究室
ＴＥＬ（〇九六）三四二―二五八四　ＦＡＸ（〇九六）三四二―二五二九

(1)　第２０回孟宗忌に集まった人々

(2)　　偲ぶ会会場

(3)　　津田道代氏撮影

期来日

玄峰　森と幸義作

日暮水流　橋板凍
日暮れ水流れて橋板は凍れり

里塊平延　藥死狗
里塊の平に延ぶるは藥死せる狗

速刹棄速　人方狂
刹に速び速に棄じて人は方に狂す

殺獣戮人　責安苟
獣を殺しと人を戮して安の苟ずると責む

歇生刹那　期来日
刹那に生くるを歇りて来日を期せ

森羅万象　夠盟友
森羅万象は盟友に夠る

消費税がなくなる時

沢田博行

熊本県の印刷業界は他の業種に比べて、業社間の「談合」が少ない方だがそれでもやはり公共事業の入札等における「談合」は存在する。もっとも、熊本の印刷業界の場合、同情すべき点もある。第一に県内の印刷会社が多すぎて過当競争となり、常に価格が下落傾向にある。第二に、印刷の種類が多種多様となり、一社では顧客のニーズに答えることができず、必然的に印刷会社同士の繋がりが強固となってしまうことだ。

だが、「談合」することにより、益々適正な競争が行なわれず、経営能力のない会社が生き残ってしまい、よけいに印刷会社が増え続ける。結局は自分で自分の首を締めているだけだ。

他の業界に比べて「談合」の少ない印刷業界だけを名指しで批判するのはかわいそうだが、ここでよく考えて欲しい。日本中から「談合」がなくなり、税金のムダ使いがなくなれば、どれだけ国や地方団体の予算が節約できるだろうか。そうなれば消費税分ぐらい十分捻出できるはずだ。一般国民は消費税や税金の使い方に対して、短絡的に政治家が悪い、官僚が悪い、とばかり言うが、このことを考えてみると、一般国民が自分で自分の首を締めているに過ぎない。

「談合」は所詮企業のエゴでしかない。そして、自分達の業界内部にさえ迷惑かけなければ良いという、特殊な価値観でしかない。だから「談合」に参加しない者は、まるで犯罪者のような扱いをうける。結局「飛ばし」や「利回り保証」、「損失補填」を行なっていた山一証券と同じなのだ。そういう人達に、山一証券を非難する資格はない。というよりも、山一証券を非難することはできても、自分の事を顧みることができない。自分達が当事者だと悪い事をしているという意識がない。おそらく「談合」が摘発されて、社会的非難を浴びても、悪い事をしたという認識はないだろう。

会社という組織の中には、経営者は常に善であり、労働者は悪であるという哲学がある。だから、経営者は社員に不正な事でも平気でさせられるし、社員は会社に異常な忠誠心をしめす事ができる。それはいわば時代錯誤の拝金主義でしかない。

しかし、この急激な時代の流れの中、私達の価値観も、会社のあり方も、社会のシステムも旧態依然とした枠を破り、新しい時代に向かって、突き進まなければならないのではないか。

(5)　講演する津田道代氏

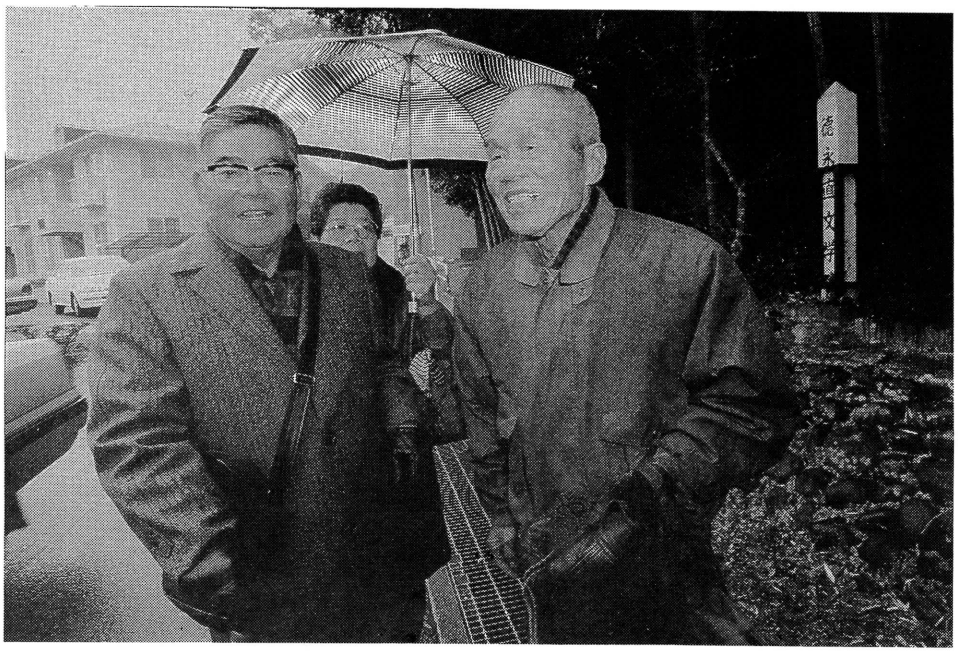
(6)　津田道代氏撮影

沖縄は今

木庭克敏

沖縄。
君は切っ先、先端、あるいは端緒。
その中で、
乗客達がおそれためらっている客車を、
強引にひっぱる蒸気機関車。
すりつぶされたデイゴの花の色素は、
君の思うがままの彩りで、
この日本を染めあげるに違いない。
君の流した血の量が多く、
流された血の色が濃いほど、
君は人々の心の砦にしのび込んで、
アジテーションの火花を、
凍ったガソリンにつけてまわる事が出来る。
星条旗に、自らすすんで屈服している輩、
それとは知らずに頭をたれ、
身をかがめている者達、
学ぶがよい、
そして解放の神学を学習するのだ、
うずまき、泡だっている、
民族の潮騒の中から。
君は大地をしっかり掴んだ毛根から、
緑濃い樹幹の頂にいたるまで、
ざわめき、声を発し、教訓を啓示する。
君のさし示す方向にしか、
広々とした日本の沃野はひらける筈がない。
君のいる所はかつての鎌倉、西南の雄藩、
変革のスタート台、発火点。

(7)　朗読会風景



(8)　宮崎政喜・チヨ子夫妻と永村敬代氏（津田道代氏撮影）

(9)　　津田道代氏撮影

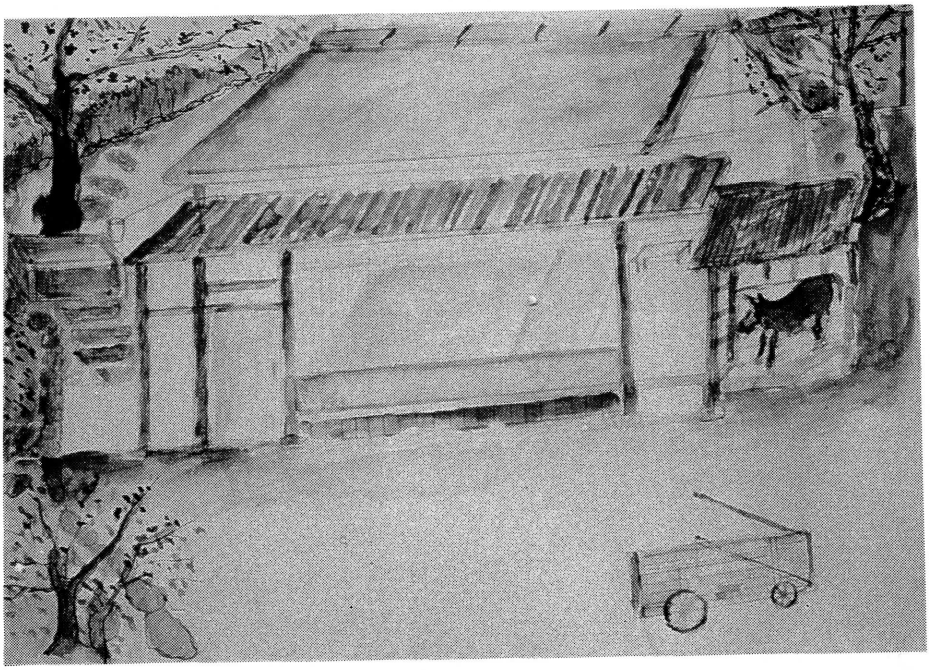
ヤヌス（January）

大橋　三千代

フォルムの神殿の東西の扉は
戦いに臨み開かれ
平和の訪れに閉じられる
ものごとの始めを司り
家々の扉に在り
未来と過去　外と内を見る
二面神（ヤヌス）

生きることに向けられる顔は
常に必ず　変貌する仮面をつける
―　道化　憤怒　平静　楽しさ　―
肉にまで喰い込んだ仮面は
素顔を喪失した人間の悲哀をも覆い隠す

自分の耳に手をやる
薄い肉で包まれた
空虚の穴
掻き出し損ねた耳垢が
笑った
カラコロと



永村敬代氏が想い出して描いた黒髪の徳永直の家

第20回孟宗忌盛大裏に終る

一九九七年二月十五日（土）はあいにくの雨だった。だが何時になく多くの人が参加された。会報36号はその日の様子を再現すべく、できるだけ多くの写真を入れた。碑前祭、記念行事、偲ぶ会と延べ人数にすれば七十名ぐらいになったようだ。

記念行事は最初に徳永直次女の津田道代さんの記念講話があった。（主催者の不手際で録音がない）父親としての直の一面が語られた。続いて、熊本朗読の会の皆さんによる徳永直作品の朗読があった。①「冬枯れ」山田すみ子氏、②「太陽のない街」宮脇利光氏、副島孝一氏、③「最初の記憶」井芹美穂氏、池田さとみ氏、④「黎明期」森永浩子氏、矢部絹子氏、⑤「妻よねむれ」松尾大倫氏、池田義一氏といった豪華メンバーによる熱読であった。ただ照明やマイクの位置など設備不備のため出演者には、大変ご迷惑をお掛けしたし、記念になる写真も十分撮れなかったのが心残りであった。続いて岩本税氏による「作品舞台のスライド」が上映された。記念行事様子の一部は写真(5)(6)(7)を参照されたい。

偲ぶ会も老若男女、いともなごやかに進行した。これは写真(2)(3)(4)(9)にてご想像下さい。

事務局だより

▽二十回孟宗忌は、それなりに盛大に行われたわけで、経費もかかったが寄附も多く集まり赤字も出さずに済んだ。参加した人が会費を出すという方式は、参加者が多ければ多いだけ助かるのである。参加できなくても会費を送ってくれたり、手渡されたりもする。とにかくありがたいことである。

▽本来なら、孟宗忌の二カ月後ぐらいには報告の会報を出すべきところである。孟宗忌が済んだ時点ではいつもそう思うのであるが、とにかく大学というところは、二、三、四月が一番忙しい時期であり、あれよあれよという間に時が移ってしまう。

▽来年はここの事務局もどこかに移さねばならない。どこに移したらいいものやら。また孟宗忌のやり方も考える時かも知れない。

▽津田道代さんからは、すばらしい写真が沢山送ってきた。その一部を本会報にも使わせてもらった。

（中村）

会計報告

1996. 7.29～1997. 5. 1

収入	３７２，４６１
繰越金	２１３，９１０
会費	４０，５５１
寄附	１１８，０００

（大野たつめ様、野口順子様、上妻四郎様
海津広子様、宮崎政喜様、高光協三様、木鶏クラブ様、
ＫＫ多々良様、阿蘇の司ビラパークホテル様）

支出	３０８，８０８
会報34号	１２，３６０
会報35号	４１，２００
通信費	２０，２４９
第20回孟宗忌経費	２３４，９９９
差引残高	６３，６５３

〒860　熊本市黒髪二－四０－一　熊本大学教育学部中村研究室
ＴＥＬ（０９６）三四二－二五八四
振替〇一九四〇－二－一一四九八番　熊本・徳永直の会

印刷所　㈱昭和印刷　三四四－五二五二・三四三－三八八六